

# 10月7日は「舞鶴引き揚げの日」

## 市民認知度100%を目指して



終戦時、多くの日本人の帰国者をお迎えた引き揚げのまち、舞鶴。

引き揚げやシベリア抑留の史実と引揚者を温かくお迎えしたまちの歴史を、次世代へ継承するとともに平和に対する意識の高揚を目指すため、舞鶴港へ引き揚げ第1船が入港した10月7日を「舞鶴引き揚げの日」として制定しています。

「舞鶴引き揚げの日」を市民の皆さんに広く知っていただき、まちぐるみで次世代へ継承するために平成30年から『舞鶴引き揚げの日』協働で目指す市民認知度100%プロジェクトに取り組んでいます。

戦後76年を迎え、風化しつつある史実を改めて見つめ直し、これからも平和への願いを舞鶴から、世界へ、未来へ発信していきます。

問 引揚記念館(08・080000)

### まちの誇りとして次世代へ

昭和20年から13年間にわたり、66万人の引揚者を温かく迎えたまち。歓迎や慰問、差し入れなどまちぐるみで迎えた市民の姿に故郷に帰られた後も舞鶴への気持ちが寄せられています。これらは手記や証言からも見ることが出来ます。

「多くの者は素直に舞鶴の大勢の方々からの心の歓迎を戴きました。これは荒みきった状態から立ち直る良い機会ともなり、戦後の人生の出发点となりました。私達にとっては、舞鶴は忘れることのできない第二の故郷であります。」(手記集「私の引き揚げ」より)

当時の市民の行動や真心は舞鶴の誇りとして、子ども達にも語り継ぎたいまちの歴史です。



### 「伝えたい舞鶴の心」ご協力をお願いします

◆協力事業所、団体などの募集  
ポスターやのぼり旗の掲出、引揚記念館出前講座の活用、ホームページや機関紙での情報発信などに協力いただける事業所、団体を募集します。申し込みは引揚記念館へ。

◆舞鶴引き揚げ折り鶴アート  
皆さんから応募いただいた折り鶴を使って「引き揚げの母 引揚船お迎えの様子」をかたどる折り鶴アートを作成します。折り紙は引揚記念館で準備していますので、同館までお問い合わせください。

### 「引き揚げの母」と呼ばれた田端ハナさん

婦人会の代表としてお茶やふかし芋をふるまい「引き揚げの母」と慕われていました。引き揚げ事業終了後も、多くの引揚者と交流を続けられました。

